

種類分けのことば

学校法人駿台甲府学園駿台甲府中学校三年 河阪 優里

私は、よく弟から「陰キャ」「オタク」とからかわれる。確かに、前髪は目にかかったままだし、家ではほとんど話さない。ゲームやアニメ、漫画は大好きだ。私自身弟からのこういった言葉はただ構ってほしくて言っていると捉えて軽い返事のみで返したり、「うるさい」などと言って黙らせようとしたりしてしまっている。それに、私のことを「陰キャ」と言ってきたのは弟だけではない。中学校一年生のときにクラスメイトの一人からも一度だけ言われた。特別嫌な気持ちなどはしなかったがはっきりと覚えている。ただ、本当に陰キャっぽく見えるんだろうくらいにしか思わなかった。髪型なども私の好きでこうしているから。でも、人によっては否定されたと感じるのだろう。

私が前髪を目にかかったままにしているのは周りからの視線をさえぎりたかったから。両目にかかっている訳ではないが、片目だけでもかかっていると少し安心する。視線が実際はこちらに向いていなくても、向いているような気がしてしまう。それが嫌だから、前髪を伸ばしている。それでも、舞台に上がって何かを発表したり、模試や定期テストの時はヘアピンで前髪が顔にかからないように留めている。私はこの状態でも構わないから、これで良いのだ。

話さないのは、ただ単に話すが得意ではないからだ。必要最低限のことを伝えることが出来れば、私にとってはそれで充分なのだ。家ではあまり話さなくても、友達とはたくさん話す。部活の時や登下校中。短い時間でもとても楽しい笑顔になれる。たくさん笑える。口で話さなくてもインターネットを通して話が出来る。私は言葉で話すよりも文章で話すほうが気楽で良い。全く話していないなんてことは無いから大丈夫だ。

「オタク」という言葉があるのは、数年前から十数年前まではあまりアニメや漫画が広まっていなくて珍しかったからではないだろうか。今では色々な種類のことにも使われているが、やはりからかわれる時に使う「オタク」という言葉は、「それに熱心な心を持っている人」というより別の嫌な意味が含まれているように感じる。ただそれが好きでそれを応援しているのに変に言われるのは少しおかしいと思う。

「陰キャ」「陽キャ」についての話は、昨年担任をしてくださっていた先生にも言われた。「陰キャと陽キャで人を分けるのはやめましょう。」と。私は話を

聞いていて泣きそうになったがこらえた。でも、先生の話はそれくらい心に届いたのだ。テンションの高い低いや得意不得意は誰にだってあるのだから、わざわざ一つの単語でくくって種類分けする必要なんてないと思った。こういう雰囲気、こういう性格で、あれが好きなんだな、くらいの認識で済ませれば良いのだ。いちいち「あの人は陽キャでこの人は陰キャ」と分ける必要なんて一切ない。「陰キャ」「陽キャ」「オタク」だけではない。他にも分ける言葉はたくさんある。分ける言葉は、本当に必要な時だけにしっかり相手も自分も周りも傷つけないように選んで使うべきだと思う。自分自身のことをそういう言葉を使って言うのも、本当はあまり良くないと思う。

おそらく私達は、自分とは違うところを単語、言葉を使って分けようとしてしまうのだろう。その方が認識しやすいのかもしれない。しかし、それはいじめにつながったり、偏見や差別につながったりしてしまう。性格だけではなく見た目に関する分ける言葉も同じだ。私も何回も「チビ」と言われたことがあるが、これはどうしようもできないことだし、傷ついた。口に出すだけだと一秒もかからないような単語一つが、人の心に刺さって何年も抜けなくなる。

見えない傷は誰だって作れてしまう。もしかしたら気付かないうちに自分も作ってしまっているかもしれない。だからこそ、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉の大切さをもう一度見直したい。陰キャじゃだめですか。オタクじゃだめですか。チビじゃだめですか。

その言葉、本当に分ける必要がありますか。